

## 実践的な OUTPUT 型の学習を

茗溪塾塾長 長谷誠基

涼しい日が増え、まさに「勉強の秋」という感じになってきました。しかし、秋は文化祭・体育祭・合唱コンクール・修学旅行など行事も多く、なかなか落ち着かないという人もいるかもしれません。

10月を迎えて、模擬試験の結果も返却され、「このままでは…」のようにあせりを覚えている人も多いと思います。9月は夏を整理する時期でしたが、10月はそこから一歩進めた学習をする必要があります。

カリキュラムがすべて終了している人はすでに過去問を解き始めている人も多いと思います。過去問演習をすると「あれ、この問題、前はできたはずなのに…」とか解答を確認したときに「そうか！ こう答えればよかったんだ。」のようなことが多く起こります。これは実践的な OUTPUT 型の学習が不足している場合に起こります。ですから、10月は過去問や模擬試験などを解き、そこで間違えた問題をやり直し、今まで使っていた問題集でその分野の補強を行うという学習を続けていってください。この時期に結構相談が多いのが、「うちの子はまだ基礎が固まっていないから、まずは基礎をしっかりやってから、過去問や模擬試験をやりたいのですが…」というものです。確かに、ご心配になることはわかります。今の状態で過去問を解いても、全然歯が立たず、自信を失ってしまうのではないかと？ 模擬試験を受けても、悪い判定ばかり出てしまうのではないかと？ というものです。しかし、あと1ヶ月から2ヶ月基礎的な学習をやっていって、はたして本当に間に合うのでしょうか？ 模擬試験も複数回受けて、どんな流れになるのかを見ていった方がいいですし、過去問も始める時期を逸すれば解く絶対数が少なくなってしまうます。もちろん、いきなり第1志望校の過去問をやるのは結構実力がある子でもなかなか点数は取れないものなので、はじめは少し偏差値が低めの併願校や問題が易しめの学校から始め、間違えた問題の分野の基礎をつぶすという学習の方が効率よく進められると思います。また、過去問を解いてみると普段とは違った傾向が見えてくることがあります。理科が苦手だと思っていたが、理科の点数は受験者平均を超えているとか、逆に得意だと思っていた国語が点数が伸びないとかです。これは問題への慣れの面もあります。毎回解きながら、今回は論説文から解いて時間がなくなったから、今度は小説からやってみようとか、理科の生物分野が弱いからもう一度暗記しようとか、学習面の指針が何か見えてきます。基礎学習も、こうした実践練習からのフィードバックを得ながら進めていってください。

まだまだ、いろいろやれることはたくさんあります。実践的な OUTPUT 型の学習の中で、焦らず一つ一つ理解する学習を積んでいってください。